

研究結果報告書

ベトナムの大学における起業家教育プログラムの展開：
日本との比較の観点から

所属： 科学技術開発研究院

役職： 副所長

氏名： グエン・ティ・ティン・タム (Dr. Nguyen Thi Thanh Tam)

本研究では最初に、ベトナム北部と南部の大学における起業家教育の現状と課題についてアンケート調査によって考察した。次に、東京・大阪・京都の大学における聞き取り調査によって、起業家教育に関する大学のカリキュラムや課外活動の着目点、その問題点や盲点、そして起業支援活動との連動の重要性などが把握・認識された。これらの知見を検討した結果、ベトナムにおける高等教育政策の立案者や実行者には次の2点を提言したい。① 起業意図のある人材を早期に選抜して教育訓練コースに参加させる。② 国家経済の発展に連動した起業分野を指定して重点的に支援する。

起業は一般的に次の3つに区分される。① ベンチャー型起業、② 中小企業型起業、③ 自営業型。伝統的に②が多数の日本に対して、ベトナムでは①と③が新規企業の主流である。このように日本とベトナムでは起業のタイプが異なっているので、日本の教育カリキュラムを導入するにしても、ベトナムの現状に配慮しなければならない。ベトナムの大学では、特に経済系大学や経済・経営学部では、もはや起業教育は講義の一部になり、ビジネスプラン作成講座として実施されている。それに加えてビジネス・プラン・コンテストなども活発に実施され、日本と同じ状況である。一方、理工系大学では「物づくり」祭や「ロボット作り」コンテストなどの課外活動が実施されている。この延長上にビジネス・プランが作成できるようになれば、理工系大学からも、より多数の起業家の出現が期待される。このように考えれば、起業関連科目を必須科目としてすべてのベトナム大学に導入することが望ましい。ただし、それが無理であるとすれば、起業に意欲のある学生の選抜が望ましい。なお、同志社大学の経験にあるように、FACEBOOKなどを活用して学生同士の様々な意見や専門家・投資家からのアドバイスを受けることはベトナムでも実行可能であり、それが起業家の育成の促進には効率的である。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

【1】「起業家育成の重要性と科学技術応用企業誕生をめぐって」

グエン・ティ・ティン・タム (単独発表)、科学技術研究所主催セミナー (シリコンバレー研修コース準備プログラム)、2014年2月3日、SENA会議室。

【2】「女性企業家への支援の重要性と職業訓練短期大学の存在意義について」

グエン・ティ・ティン・タム (単独発表) 中小企業振興センター・商工省属職業訓練校主催会議、2014年8月15日、ハノイ本部。

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

- 【1】 「国際競争を乗り越える起業家養成に向けた大学教育プログラム」
グエン.ティ.タイン.タム (単著)、貿易大学国際学部学術セミナー
2014年3月。
- 【2】 「日本の大学における起業精神と起業家養成プログラムの事例紹介
と教訓」グエン.ティ.タイン.タム (単著)、貿易大学日本語学科
学術セミナー、2013年7月。
- 【3】 「ベトナムにおける日本語教育と日本研究」
グエン.ティ.タイン.タム (単著)、国際シンポジウム、
ハノイ社会科学アカデミー、2013年11月。
- 【4】 「日本語教育について」グエン.ティ.タイン.タム (単著)、
ハノイ大学国際セミナー、2013年10月

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)